

PART 1 〈自動車・バイクモデル〉

はじめに

プラモデルは急がずにゆっくり楽しみながら作りましょう。

組み立て

組み立てのポイントは接着剤が見えないように、そしてきちんと接着することです。ドアミラーに触れただけでポロリなどというのは感心しません。ポイントはいろいろな接着剤を使い分けることです。

○プラモデル用接着剤（ビン入り、筆付き）＝最も基本的な接着剤です。急がない部分の接着に使用します。接着する両面に薄く塗布して素早く貼り合わせします。貼り合わせる部分を合わせておいて流し込んで接着する流し込みタイプもあります。なお、どの接着剤でも同じですが、メッキ部分や塗装部分はあらかじめはがしておいてから接着します。

○瞬間接着剤＝この接着剤が開発されてプラモデルの製作が能率的にできるようになりました。

製品化された当時は接着部分が白濁化する欠点がありましたが、近年は改善されています。

○クラフトボンド＝タミヤから発売になったクラフトボンドは接着時は白色ですが乾くと透明になりますので、ライトレンズやウィンドウなどのクリヤーパーツの接着に威力を発揮します。

○エポキシ系接着剤＝2本のチューブから同量を出して混ぜ合わせて使用しますので手間がかかるのが欠点ですが、金属、プラスチック、木材などの接着ができ接着力も強力です。

ONE POINT ADVICE

ドアミラーは接着面が少ないので確実な接着が困難です。これは差し歯の要領で取り付けましょう。ボディ面とドアミラー面にピンバイスで穴をあけてピアノ線、真鍮線などを入れて瞬間接着剤で固定します。

塗装について

自動車やバイクモデルの命は何とんでもツヤです。要領をマスターすればどなたでも素晴らしいツヤのモデルに仕上げることができます。また、自分だけのオリジナルカラーのモデルも作ることができます。

ボディの塗装はよほどの名人でもない限り筆塗りは不可能です。缶スプレーかエアブラシでの塗装になります。その塗装の手順を説明します。

- ①最近の製品は製造段階での油の付着が殆どなくなりましたが、製作過程で手の脂が付着することもあります。そのまま塗装すると塗料をはじいてしまいますので台所用の中性洗剤で洗っておくことをお勧めします。
- ②整形色が白の場合は良いのですが黒などの場合、赤や黄色の塗料を吹き付けても下地の黒が浮き出てしまい、きれいな色に仕上がりません。そのようなときには下塗りとして白のサフエーサーを塗っておきます。サフエーサーはあまり厚く塗りますと最終的にぼってりとした感じになってしまいますので薄く塗って下さい。
- ③色を塗り分けるときはマスキング作業をします。ここで手を抜くとテープの隙間から塗料が入り込んでしまいその修正にかえて手間がかかることになってしまいますのでマスキング

は念入りに行いましょう。なお、マスキングテープが貼りづらい場所はマスキングゾル（液体マスキング剤）を使用します。

- ④いよいよ本番の塗装に入ります。塗料はラッカー系塗料が乾きが早く、たれにくいので広く使われています。また、塗膜も固いので仕上げの磨き作業が可能です。エアブラシを使用する場合はシンナーの薄め具合に注意して下さい。濃すぎると塗料が蜘蛛の巣のようになってしまいますし、薄すぎると流れやすくなります。標準的には塗料1に対してうすめ液1.5~2くらいが良いと思います。2~30分で乾きますので塗装を3回くらい行います。
- ⑤塗装が終わりましたらデカールを貼ります。この時、必要に応じてクレオスのマークソフター（曲面に貼る場合）、マークセッター（デカールの糊が弱い場合）を使用するのも良いでしょう。
- ⑥次にクリヤーを塗装します。クリヤーはラッカー系で問題ありませんが、最初の1~2回は薄く塗膜ができる程度に吹き付けます。最初から厚く塗りますとせっかく貼ったデカールがグニャグニャになってしまいます。ツヤを出すための最終段階の塗装は3回程度は必要です。
- ⑦塗装が完全に乾いたら1500~2000番くらいの耐水ペーパーで塗装面を軽く磨きます。表面が白くなってしまいますが心配はいりません。なおこの時、エッジ部分は磨かないで下さい。下地が出てしまいます。
- ⑧あとはコンパウンドを使って念入りに磨き上げて下さい。最後にワックスを塗って仕上げます。どうですか、ピカピカになったでしょう？
- ⑨缶スプレーでもエアブラシでも同じですが、塗装は湿気のない日に行ってください。良い仕上がりに結びつきます。
- ⑩缶スプレーを使うときは手のひらなどで少し温めてから吹き付けて下さい。冷えた状態で吹き付けますと塗料が霧状にならないで仕上がりが悪くなります。缶スプレーを使った後は缶を逆さまにして2~3秒間カラ吹きをして下さい。この作業を怠ると次回使うときにノズルが詰まってしまう塗料が残っているのに使えなくなってしまいます。
- ⑪細かいパーツはタミヤのエナメル塗料を使って筆で塗りましょう。乾きが遅い分、筆あとが残らずきれいに塗れます。
- ⑫塗料を塗り重ねるときは順番に注意して下さい。ラッカー系の上にエナメル系、その上に水性ならば問題ありませんが、その反対の順番で塗り重ねますと下の塗料を侵してしまいます。
- ⑬組み立ててから塗装するのか、塗装してから組み立てるのかと良く質問を受けます。これは一概には言えません。基本的には組み立てた後で同じ色になる部分は組み立ててから、違う色になる部分は塗装してからと答えしておきましょう。従いまして、組み立て説明書を見て同じ色になる部分は塗装する前に組み立てておきましょう。

ONE POINT ADVICE

うすめ液を使い分けましょう。（ラッカー系塗料を使用してエアブラシ塗装時）

Mr. ラピットうすめ液

乾燥速度が速いので、シルバーなどのメタリック塗料の粒子が均等に配列されることで美しい塗装面が得られます。このうすめ液はツヤ消し塗装にも向いています。

Mr. レベリングうすめ液

乾燥速度が遅いので、クルマなどのツヤあり塗装をする時に表面の平滑度が良くなり、光沢度を高めます。

(by K. Suzuki)

以下、現在編集中